

技術、工種を拡大

建設ICT導入普及研究会が総会



産学官で構成する建設ICT導入普及研究会（会長・八峯隆中部地方整備局長）の第4回総会が6日、名古屋合同庁舎第2号館で開かれた。写真。今後の情報化施工推進戦略や橋梁での3次元モデルの取り組み事例紹介のほか、技術普及、設計施工見直し、建設マネジメント研究の各ワーキンググループ（WG）が本年度の活動報告と来年度以降の方針などを説明した。

あいさつで八峯局長は「建設ICTの導入工事や現場見学など中部は積極的に取り組んでおり、会員の経験やノウハウは全国でもトップだ」と述べ、今後も積極的に取り組んでいくとした。引き

続き、国土交通省総合政策局の稲垣孝企画専門官が情報化施工推進戦略の全国的な取り組み状況を紹介。また、第2期推進戦略（13～17年度）では、情報化施工の関連データの活用や普及技術・工種を拡大していく方針を説明した。

国土技術政策総合研究所の青山憲明主任研究官は、橋梁の設計・施工、維持管理にわたる3次元データ流通と、3次元モデルを活用した橋梁事業での維持管理情報の統合について解説。データ流通

では、設計から施工、施工から維持管理に引き継ぐ位置情報の設定が重要だとした。

導入普及研究会の活動報告では、技術普及WGが現場見学会の実施状況、施工者が現場での実体験を報告する施工報告会で意見交換を行ったことなどを報告。14年度は、コストと施工数量の関係性などを新たに検証する。出来形管理に関する技術者育成は、14年度は監督職員（主任監督員含む）を対象に行つた。

設計施工見直しWGは、3次元データの流通手法で設計から施工へのデータ流通に関するルー

ル案に基づき、道路と河川の各工事で試行した結果を報告。設計データが工事段階の完成断面形状と一致しない場合、施工者によるデータ修正が発生するため「いつ、だが、どの段階で」データを作成するか検討する必要があるとした。

必要があるとした。

そのほか、建設マネジメント研究WGはCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）の試行業務で効果と課題を検証。今後は、調査・設計・施工・維持管理について、次の段階への受け渡し時に必要な情報の伝達を想定し、有用性を確認しながら3次元モデルでの試行を行う。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中日 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |

平成26年2月10日（朝）・夕）P11

日刊建設工業新聞